

2025年度 第18回
美作大学社会福祉学会
～卒業生・在校生交流セミナー～



2025 (R7) 年5月3日 (土)

美作大学 100周年記念館・136 教室

主催 美作大学社会福祉学会

【参加者 143名】

内訳

卒業生:25名 教員・一般:26名

在学生:92名

(4年生53名、3年生37名、2年生1名、1年生1名)

2025年度第18回

美作大学社会福祉学会～卒業生・在校生交流セミナー～

【目的】

卒業生が集い、福祉現場の仕事内容、やりがい、抱えている課題等を共有し、大学で学んだことと、福祉実践を結びつける機会を作ることを目的として、学内社会福祉学会を設立する。

また、卒業生と在校生の交流の場とし、お互いのつながりを作る契機とする。

さらに卒業生のみならず、大学圏域の福祉専門職とのつながりを作り、お互いの研修の場となることを目的とする。

【日程】

13:00 開会

13:10 第1部 講演「生命」 昆虫標本アーティスト 小枝 正和氏

| | Aグループ | Bグループ |
|----------------|--|--|
| 14:20 (40分) | 5階ホワイエ 4階ラウンジ 小枝さんの解説と標本鑑賞・交流 | 1号館 136教室 さらに小グループで分科会 テーマ「教えて先輩！新人あるある」 |
| 15:00 | 小休憩(会場移動) | |
| 15:10 (40分) | 1号館 136教室 さらに小グループで分科会 テーマ「教えて先輩！新人あるある」 | 5階ホワイエ 4階ラウンジ 小枝さんの解説と標本鑑賞・交流 |

14:10 小休憩

14:20 第2部 展示鑑賞と分科会

15:50 小休憩

16:00 閉会

第1部 講演

「生命」

昆虫標本アーティスト 小枝正和氏



8年前仕事帰りに、スピード違反の車に衝突されるという交通事故に遭った。

脳挫傷、くも膜下出血、ろっ骨骨折で重傷。

一時は命も危うい状態だった。大けがを負い、絶望の中、病院のベッドの上で知ったモルフォ蝶の美しさに惹かれ、取り寄せてみた。すると届いた蝶は茶色い羽根。しかし、裏返すと見事な青い光を放っていた。自分を守るために片方は茶色であること、美しい青色は、羽そのものの色ではなく、光によって、青く光ること、そのような自然界の厳しさやその中で生き抜く力強さに心を打たれ、標本アーティストになることを決意する。

命はとりとめたものの、高次脳機能障害が残り、注意力や集中力が低下、2年間復職できなかった。というより、職場の理解が不十分で復職させてもらえなかった。労基署に訴え、やっと復職できたものの、「これまで通りの仕事ができないなら辞めてもらう」といった会社の理不尽な扱いがあり、とてもしんどい時期があった。絶望の淵で、苦しんだ自分だからこそ、表現できるものがあると思い、アートを作っている。自らの生きざまを通して、自分の好きなものをやり遂げることの大切さ、好きなことをやり続ける意志の強さについて説かれた。

- ・人生には無駄なことは一つもない。勝つことではなく、負けないことが大切。
- ・起こった出来事をどう解釈するか、自分次第。未来が過去に意味を持たせる。

生命 人が一つのことに対して、情熱を叩きつけること。

生きること、情熱をたぎらせて、がむしゃらに生きる、生き抜くことが大切

参加者の感想

逆境でもあきらめずに前を向き努力を続けること、自分を信じるのが大切だと分かった。

事故にあい、絶望を経験した中で自分にできることを見出し、努力する姿はとても感動した。

交通事故によって今まで通りの生活が送れなくなったが、現在は、色彩感覚があることや芸術が好きなことなど、自分自身の強みを活かして活動されていることを知り、私も今という時間でできることを精一杯頑張ろうと思えた。

失敗や挫折に対して、前向きな解釈をすることや自分の信じたものを最後までやりきることが、彼自身のレジリエンスだと感じました。自分も今を大事にして、失敗や挫折を試行と再現性の向上によって、大きな成長につなげたいと思いました。

第2部-1 作品鑑賞

5階ホワイエ・4階ラウンジ

作品一つ一つの輝き、それに添えられたメッセージがどれもとても素敵でした。



虫や石を使って作品として自分の考えを表現されていて、綺麗さの中に力強さを感じました。



私は無視が苦手な鑑賞するのに抵抗があったけれど、作品を見ているととても美しく素敵なアートだなと見とれていました。小枝さんの思いが、アートになってみなさんの心を動かしているんだなと思うと感動しました。



同じ昆虫でも見え方が違っていたり、同じ種類でも全然違う見た目だったり、とても魅力的で奥深いものだと感じました。



標本を近くで見る機会がないので、すごく貴重な経験をさせていただきました。また、その標本をもとに作品を作られていて、一つ一つに込められた思いを感じました。ありがとうございました。

第2部-2 分科会 136 教室

卒業生と在校生が「新人あるある」をテーマに交流をした。



- 興味のある児童分野の先輩からお話を聞くことが出来て実習やその先にも活かせると思いました。
- 将来についての質問や不安を心身に聞いてくれてとても参考になった。

- 先輩方の就職してからの大変だったことなどたくさん話を聞いて楽しかったし、とても参考になりました。

- 在学中は、後輩と交流する機会はありませんでしたので、大学生活を懐かしく思い出しながら話すことができよかったです。

